

ほうすう

鳳雛だより

河内町立かわち学園

2025/1/8 発行 第8号

茨城県稲敷郡河内町長竿5456番地1

TEL 0297-84-6233 FAX 0297-84-5377



令和7年（巳年）がスタートし、今日から学校が再開しました。朝から子供たちの明るい笑顔であふれ、元気な声が響きわたり活気に満ちていました。令和6年度も残り3か月弱となり、いよいよラストスパートです。教職員一同、力を合わせて、子供たちのために精一杯努めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします

本日は1時間目のはじめに、放送で次のような話をしました。

今日から3学期がスタートしました。今年はい巳年です。巳年についていろいろ調べてみました。巳年は、蛇は脱皮して成長することから、生命や再生を連想させ新しいことが始まる年、また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われているそうです。

「一年の計は元旦にあり」。物事を始めるにあたっては、最初にしっかりと目標や計画を立てることが大切です。しかし、それだけに終わってしまっは何の成果も成長もありません。「千里の道も一歩から」、目標を実現するために一歩一歩着実に努力をしていくことがさらに大切です。

だから、「まずは一歩を踏み出しましょう。やらなければ何も始まりません。やりたいことややりたい自分があるなら、とにかくまずはやってみましょう。自分にはできないなどと考えず、まずはやってみましょう。明日からやろうではなく、今からやってみましょう。うまくいかないことがあったら、どうすればいいかを考えて、さらに一歩踏み出してみましょう。」

目標を達成することは、簡単なことではありません。努力していく過程において、様々な困難や苦勞に出合い、悩んだり不安になったりすることもあるかもしれません。そのような時は、家族や友達、先生に相談しながら、最後は自分で考えて行動し、困難を乗り越えていくことで、目標を達成することができますし、自分自身を大きく成長させ、「自立」にも繋がります。目標に向かって、根気よく力強く努力し、達成感や成就感を味わいながら、ますます成長し、実を結び、笑顔いっぱいになることを期待しています。



3学期始業の全校集会は、放送とオンラインで行いました



3学期のめあてを考えました



学級活動で新しい係を決めました



授業が本格的に始まりました



児童生徒会 立会演説会・選挙

12月11日（水）6時間目に、児童生徒会立会演説会と投票が行われました。演説会は、選挙管理委員を中心に、非常に緊張感のある雰囲気の中で進められました。立候補者は、これから児童生徒会役員としてどんな学校にしていきたいか、どんなことを頑張っていきたいかを、責任者とともに熱心に発表しました。聞いている5～9年生の児童生徒も真剣な態度でした。投票は図書室前で行いました。厳かな雰囲気の中で、一人一人が投票用紙に書き込んでいました。今年も河内町から、選挙で使っている本物の投票箱と記載台をお借りしました。5年生は初めての選挙で不安そうでしたが、担任の先生からの投票の注意をよく聞いて、しっかりと一票を投じることができました。



水泳学習



12月2日（月）をもって、今年度の水泳学習を終えることができました。各学年の学習では、自分の泳力に合ったコースで思う存分泳ぐ姿が見られました。水を怖がっていた子供達も、最後は水しぶきをあげてはしゃいでいました。コロナ渦では、プールから遠ざかっていた生活でしたが、こうして思い切り水と触れ合うことができることに感謝しなくてはなりません。ご協力ありがとうございました。

美浦特別支援学校との交流

12月5日（木）に、美浦特別支援学校小学部6年生と6年1組が、レクリエーション活動をするなど、交流学習を行いました。当日は20名の支援学校の友だちを元気なあいさつで迎え、楽しく活動しました。まるで、毎日会っているかのように振舞う6年生の姿に成長を感じることができました。



大根の収穫



12月10日（火）に毎年恒例の3・7・8年生による大根の収穫を行いました。地域のボランティアの方々のご協力のもと、楽しく活動することができました。今年も豊作で、立派な大根を抜くのは大変でしたが、みんなで力を合わせて頑張りました。



給食の献立にも登場して、おいしくいただきました。

夢の教室



12月19日（木）、8年生で夢の教室が行われました。これは、プロサポーターの方と一緒に体を動かしたり考えたりする時間を共有して、自分の将来や、夢に向かって努力することの大切さについて学ぶ教室です。今回は、サッカー元日本代表、永島昭浩さんが来校しました。1組とは3・4時間目に、2組とは5・6時間目に、一緒に活動して、楽しい時間を過ごすことができました。



教職員コーナー

12月の研修は、性的マイノリティ（LGBTQ）の理解と対応をテーマに、他者からの何気ない発言や無理解が引き起こす問題について考えました。「何で制服にはズボンとスカートがあるの。」といった、突然の質問や相談を受けたときの答え方など、具体的な場面を想定しての対応について、みんなで意見を出し合い研修しました。